

新内科学大系

治療總論 IIIa



新内科学大系

7 A

治療總論 IIIa

東大名譽教授 浜松医科大学長	自治医大学長	前東北大学教授	前慶大教授	九大教授	東大教授	阪大教授
吉 利	中 尾	山 形	三 辺	黒 岩	織 田	山 村
喜 久	敵 一	謙 一	義 五	敏 次	雄 一	

<監 修>



中山書店

1979年2月27日

全60巻

(第1巻) 総論

1976年4月15日 第1刷発行

検印省略

新内科学大系 (全60巻)

Handbook of Internal Medicine
(Shin-Naikagaku Taikēi)

第7巻A 《治療総論 IIIa》 ©

監修

吉 利 和
中 尾 喜 久
山 形 敏 一
三 辺 謙
黒 岩 義 五 郎
織 田 敏 次
山 村 雄 一
中 山 三 郎 平

発行

発行所

株式会社

中山書店

〔製作〕 株式会社 中山・新内科学大系刊行部

東京都文京区本郷3の14の10 (泰生ビル)

TEL. 813-1101 (代表) 郵便番号 113

〔販売〕 東京都文京区本郷3の6の12 (太平ビル)

TEL. 815-3511 (代表) 郵便番号 113

〔取引〕 東京都千代田区神保町2の24

TEL. 263-5511 振替東京196565 郵便番号101

印刷／凸版印刷株式会社 製本／松岳社青木製本所
用紙／三菱製紙株式会社 表紙／ダイニック株式会社

3347-213301-5612

系大學採内藤



III 編纂部

鎮	石	鈴	和	慶	土	愛	国
東女医大教授	山形大教授	東大講師	東大助教授	東大助教授	屋	媛大教授	府
目	川	木	田	大	屋	大	達
和	秀	秀	攻	春	郎	郎	郎

〈編集〉

〈解説〉



中山書局

尾 前 照 雄	九 大 教 授	阿 部 裕	阪 大 教 授	高 安 正 夫	国 立 京 都 病 院 長	脇 坂 行 一	滋 賀 医 大 学 長	京 大 名 譽 教 授	山 田 弘 三	中 部 勞 災 病 院 長	名 大 名 譽 教 授	真 下 啓 明	東 大 教 授	堀 内 淑 彦	東 大 教 授	豐 倉 康 夫	東 大 教 授	小 坂 樹 德	東 大 教 授	村 尾 覺	東 大 教 授	滝 島 任	東 北 大 教 授	中 村 隆	山 形 大 教 授	白 石 忠 雄	北 大 教 授	村 尾 誠	北 大 教 授
------------------	------------------	-------------	------------------	------------------	---------------------------------	------------------	----------------------------	----------------------------	------------------	---------------------------------	----------------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------	------------------	-------------	-----------------------	-------------	-----------------------	------------------	------------------	-------------	------------------

〈監修協力〉

德臣晴比古	高岡善人	小坂淳夫	木下康民	武内重五郎	增田正典	日比野進	上田泰	和田武雄
熊大教授	長大教授	岡大学長	新大教授	東医歯大教授	京府医大教授	名大名譽教授 国立名古屋病院長	慈大教授	札医大教授

〈顧問〉

卷五

名譽顧問

(一) 名譽顧問

學士院會員 東北大名譽教授 黒川利雄	學士院會員 東大名譽教授 冲中重雄	關東學院病院名譽院長 田坂定孝	名大名譽教授 名城病院院長 青山進午	京大名譽教授 國立京都病院名譽院長 三宅儀	阪大名譽教授 國立大阪病院院長 吉田常雄	九大名譽教授 宮崎医科大学長 勝木司馬之助
--------------------------	-------------------------	--------------------	--------------------------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------

〈名譽顧問〉

第7卷A

治療総論Ⅲa

—主要薬剤と使い方 (1)—

著 者

国立療養所東京病院 院長	砂 原 茂 一	東大講師	佐 藤 倚 男
福医大助教授	赤 坂 喜 三 郎	慈大教授	新 福 尚 武
名大教授	祖 父 江 逸 郎	前都立明石病院 院長	酒 井 威
山形大第二内科	高 橋 恒 男	九州厚生年金病院 部長	梅 崎 博 敏
東大教授	吉 川 政 己	群大助教授	森 松 光 紀
北里大教授	田 崎 義 昭	北里大講師	古 橋 紀 久
横浜市民病院 院長	萩 原 魏	鹿大助教授	永 松 啓 爾
東大名譽教授 浜松医大学長	吉 利 和	帝京大講師	佐 藤 友 英
東京通信病院 部長	花 岡 和 一 郎	岐大教授	早 瀬 正 二
岐大講師	伊 藤 裕 康	石見循環器 クリニック	石 見 善 一
東大講師	三 島 好 雄	札幌大教授	宮 原 光 夫
横市大教授	金 子 好 宏	東大第二内科	石 井 當 男
東北大教授	岩 月 賢 一	順大教授	本 間 日 臣
北大教授	村 尾 誠	阪大講師	額 田 忠 篤
慶大教授	本 間 光 夫	愛知医大教授	沢 木 信 二
名大名譽教授 中部労災病院院長	山 田 弘 三	京大第二外科	谷 村 弘
京大教授	日 笠 頼 則		

(執筆順)

目 次

I. 総 論

A. 薬物療法の原則	砂原茂	3
1. 薬の科学		3
2. 体験主義の限界		3
3. 現行治療文献の欠陥		3
4. 臨床薬理学的理解		4
5. 薬害について		5
B. 薬剤の効果判定	佐藤倚男	7
1. 判定基準の種類		8
2. 全般（概括）改善度の判定に関する問題		11
3. 全般改善度，項目ごとの改善度の判定における経過の重要性について		13
4. 有用性という新しい判定概念について		13
5. 有効性と安全性という二つの異なった概念を有用性という立場で統合することの可否		14
6. 判定基準の信頼性と妥当性		15
C. 薬剤による医原性疾患	赤坂喜三郎	16
1. 医原性疾患の概念		16
2. 治療薬剤とその副作用		17
a. 精神神経用剤，鎮静催眠剤，抗てんかん剤，非麻薬性鎮痛剤，下熱鎮痛剤の副作用		17
b. 化学療法剤の副作用		21
c. 降圧剤，利尿剤の副作用		24
d. 抗凝血剤，強心剤，不整脈治療剤の副作用		25
e. 経口糖尿病剤，抗甲状腺剤の副作用		25
f. 副腎皮質ステロイド剤の副作用		27
g. 甲状腺ホルモン剤，蛋白同化ステロイド剤，女性ホルモン剤の副作用		

用	34
h. その他の薬剤の副作用	35
3. 治療薬剤による障害を中心に	36
a. 薬物アレルギーならびに薬物ショック	36
b. 薬剤による血液障害	41
c. 薬剤による肝障害	45
d. 薬剤と催奇形作用	55
e. キノホルムとSMON	60
f. 薬剤による肺疾患	63
4. 薬剤医原性疾患の対策	64
II. 神経・筋系作用剤および下熱剤	
A. 催眠剤	新福尚武 71
1. 催眠薬の種類	71
2. 催眠薬の特徴, 適用, 副作用	72
3. 臨床における用い方	75
4. 催眠薬の選択基準	75
5. 催眠薬の具体的選択	76
6. 用い方および使用上の注意	77
7. 睡眠薬使用についての注意	78
8. 副作用	78
B. 鎮痛剤	祖父江逸郎 80
1. 麻薬性鎮痛剤	80
a. アルカロイド系麻薬	81
b. 非アルカロイド系合成麻薬	83
2. 非麻薬性鎮痛剤	84
a. 抗炎症性鎮痛剤	84
b. 麻薬拮抗性鎮痛剤	88
C. その他の鎮静剤	酒井 威 90
1. 臭化物	90
2. aldehyde-keton 属	91
3. alcohol 属	93

4. carbamate 属	93
5. pyridine-piperidine 属	94
6. ureid 属	95
7. quinazalone 属	95
8. phenothiazine 属	96
D. 鎮 痙 剤	高橋恒男 100
1. 薬剤の種類	100
a. 天然アルカロイド	100
b. 合成3級アミン型鎮痙剤	103
c. 合成4級アンモニウム型鎮痙剤	103
d. COMT阻害剤	107
2. 適 応	108
a. 腹 痛	108
b. 下痢, 便秘	109
c. 各種検査の前処置	109
3. 用いかた	110
E. 抗てんかん剤	梅崎博敏 113
1. 抗てんかん剤使用にあたっての注意	113
2. 抗てんかん剤の種類と使用法	114
a. 抗てんかん剤の種類	114
b. 抗てんかん剤投与の一般原則	116
c. 各発作型に対する抗てんかん剤の使用法	117
3. てんかん重積症の治療	118
4. てんかんの精神症状の治療	118
F. 抗パーキンソン剤	120
1. 抗パーキンソン剤の種類	120
2. 抗パーキンソン剤の用いかた	120
G. トランキライザー	吉川政己, 森松光紀 126
1. 概 念	126
2. major tranquilizers	127
3. minor tranquilizers	131
4. psychostimulants, thymoleptica, thymereithica	136

H. 覚 醒 剤	田崎義昭, 古橋紀久	139
1. 精神刺激薬		139
2. 意識障害治療薬		142
3. モノアミン酸化酵素抑制薬		143
I. 自律神経遮断剤	萩原 魏	145
1. 自律神経系の特徴		145
2. 自律神経の病態		147
3. 自律神経剤適応の意義		148
4. 自律神経遮断剤の作用機序		150
5. 自律神経遮断剤の用いかた		153
6. 自律神経遮断剤の種類および適応		154
a. 交感神経遮断剤		154
b. 副交感神経遮断剤		157
c. 自律神経節遮断剤		160
7. 自律神経遮断剤の副作用		161
J. 筋弛緩剤	永松啓爾	163
1. 概 念		163
2. 用いかたの原則		163
3. おもな薬物とその使用法		164
K. 下 熱 剤	吉利 和	168
1. 概 念		168
2. 下熱鎮痛剤の分類と種類		168
3. 作用機序		169
4. 適 応		169
5. 用いかたと副作用		172
6. 下熱鎮痛剤の使用上の注意		174
III. 循環器・呼吸器系治療剤		
A. 強心配糖体	佐藤友英, 花岡和一郎	181
1. 化学構造と薬剤の種類		181
2. 薬理作用		182
3. 吸収, 生体内分布, 排泄		183

a. 腸管からの吸収について.....	183
b. 生体内分布について.....	183
c. 排泄について.....	184
4. ジギタリスの血中濃度とその臨床的意義	184
5. bioavailability	186
6. ジギタリスと他薬剤との相互作用.....	186
7. 臨床的適応	187
a. うっ血性心不全.....	187
b. 不 整 脈.....	188
8. 投与方法	188
a. 飽和と維持.....	188
b. 強心配糖体の種類と特性.....	188
c. 投与方法.....	189
d. 最近のジギタリス投与法の再検討.....	191
9. 強心配糖体の副作用とその治療	191
a. 強心配糖体中毒の誘因.....	191
b. 中毒症状.....	192
c. 強心配糖体過不足の判定.....	193
d. ジギタリス中毒の治療.....	194
B. 冠拡張剤（抗狭心痛剤）..... 早瀬正二, 伊藤裕康	197
1. 亜硝酸製剤	198
2. β 遮断剤	201
3. その他の冠拡張剤.....	204
C. 抗不整脈剤	208
1. キニジン	208
2. プロカインアミド.....	210
3. アジマリン	212
4. リドカイン	213
5. β 受容体遮断剤.....	214
6. ジフェニルヒダントイン	215
7. bretylium tosylate	217
D. 末梢血管拡張剤..... 三島好雄	223

6 目 次

1. 薬剤の種類	223
2. 作用機序	223
3. 適 応	224
4. 用いかた	225
5. 副 作 用	226
E. 昇 圧 剤	宮原光夫 227
1. 本態性低血圧症	227
2. 起立性低血圧	228
3. ショック	229
F. 降 圧 剤	金子好宏 238
1. 利尿降圧剤	238
a. benzothiadiazine およびその類似薬剤	238
b. furosemide と ethacrynic acid	241
c. 抗アルドステロン剤およびその類似薬剤	242
2. 血管拡張剤	243
a. hydralazine およびその類似薬剤	243
b. minoxidil	244
c. diazoxide	245
3. 交感神経抑制剤	245
a. Rauwolfia アルカロイドおよびその類似薬剤	245
b. メチルドパ	247
c. clonidine	248
d. guanethidine	249
e. bethanidine	250
f. fusaric acid	250
4. 自律神経節遮断剤	251
5. β 受容体遮断剤	252
G. 利 尿 剤	石井當男 261
1. 炭酸脱水酵素抑制剤	261
2. benzothiadiazine 系利尿剤および類似薬剤	262
3. furosemide と ethacrynic acid	264
4. カリウム保持性利尿剤	267

a. スビロラクトン	267
b. トリアムテレン	267
c. amiloride	268
5. 水銀利尿剤	268
6. 滲透圧利尿剤	269
7. xanthine 系利尿剤および類似利尿剤	270
8. 新しい利尿剤	271
H. 呼吸興奮剤	岩月賢一 280
1. 呼吸興奮剤	280
2. 呼吸興奮剤使用上の原則と適応	284
3. 呼吸興奮剤使用上の注意事項	284
I. 鎮咳去痰剤	本間日臣 285
1. 作用機序	285
2. 薬剤の種類	286
3. 適応と用い方	286
J. 気管支拡張剤	村尾 誠 299
1. 作用機序	299
2. 主要薬剤と使用法	300
3. 投与法	300
4. 気管支拡張剤吸入療法による副作用	300
IV. アレルギー疾患治療剤	
A. 抗ヒスタミン剤	額田忠篤 305
1. 薬剤の種類と製品	305
2. 薬理作用	306
3. 生体内運命	307
4. 適 応	309
5. 副 作 用	310
B. 抗リウマチ剤	本間光夫 313
1. 概 念	313
a. 抗リウマチ剤の慢性関節リウマチ治療に占める位置	313
b. 抗リウマチ剤療法の基本方針	314

c. 慢性関節リウマチの炎症	314
2. 薬剤の種類	317
a. 非ステロイド性抗炎症剤	317
b. 特殊抗リウマチ剤	322
c. 免疫抑制剤	324
V ビタミン・栄養剤	
A. ビタミン剤	沢木偉二, 山田弘三 329
1. 脂溶性ビタミン	329
a. ビタミン A	329
b. ビタミン D	329
c. トコフェロール	330
d. ビタミン K	330
e. ビタミン F	330
2. 水溶性ビタミン	331
a. ビタミン B ₁	331
b. ビタミン B ₂	334
c. ニコチン酸, ニコチン酸アミド	334
d. ビリドキシン	335
e. パントテン酸	335
f. ビオチン	336
g. ビタミン B ₁₂	336
h. 葉 酸	336
i. その他の B 群ビタミン	337
j. ビタミン C	337
B. 非経口栄養剤	谷村 弘, 日笠頼則 339
1. 主要糖液とその使用方法	339
a. 糖液の種類とその作用機序	340
b. 糖質輸液の適応とその使用方法	342
c. 糖質輸液の副作用	342
2. 主要アミノ酸液とその使用方法	343
a. アミノ酸注射液とその作用機序	344

b. アミノ酸輸液の適応とその使用方法.....	345
c. アミノ酸輸液の副作用.....	347
3. 脂質輸液とその使用方法	347
a. 脂質輸液剤の種類とその作用機序.....	348
b. 脂質輸液の適応とその使用方法.....	348
c. 脂質輸液の副作用.....	350

索 引.....	351
薬品名索引.....	354